

# ミカン生育情報

千葉県

平成 21 年 7 月号

## 平成 21 年 6 月の気象

平均気温は、第 1、2、4、6 半旬は平年より低く、他の半旬はほぼ平年並みだった。月平均気温は 20.6 で平年の 20.9 より 0.3 低かった。

今年の梅雨入りは 6 月 10 日で、昨年より 12 日、平年より 2 日遅かった。降水量は 250mm で平年より 11mm 多く、特に下旬は 173mm と平年の 1.8 倍だった。月合計日照時間は 107 時間で平年より 28 時間 (20%) 少なかった。

表 1 平成 21 年 6 月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温		降水量 mm		日照時間 hr	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	18.9	19.8	16	27	17	28
2	19.9	20.3	22	30	17	25
3	20.5	20.4	27	46	19	23
4	20.5	21.4	12	41	22	21
5	22.1	21.3	81	54	7	19
6	21.9	22.1	92	41	25	19
平均/合計	20.6	20.9	250	239	107	135

## 果実及び樹の生育

暖地園芸研究所における今年の着果量は早生温州、普通温州とも非常に多い。果実肥大は順調で、生理落果の量は平年並みである。樹勢は良好で、特に目立った病害虫はない。

## 7 ~ 8 月の栽培管理

**摘果** 着果量が多い樹では、なるべく早く摘果を行う。早生温州では、内なり、裾なりの果実を全摘果し、樹冠表面の果実を間引き摘果する。普通温州では枝別摘果や樹冠上部摘果とし、着果部位は 9 月以降に小玉果や大玉果、傷果を除く程度に軽く摘果する。

着果量が中程度の樹では、早生温州は内なり、裾なりの果実を全摘果し樹冠表面の果実を間引き摘果する。普通温州は内なり、裾なりの果実のみ適果し、9 月以降に仕上げ摘果する。

着果量が少ない樹では、早生温州、普通温州ともに粗摘果は行わず、9 月以降に仕上げ摘果を行う。

**マルチ資材の被覆** 使用するのは白色透湿性シートで、これは降雨を遮断し、土壌中の水蒸気や炭酸ガスは排出するため、土壌を乾燥させることができる。被覆の時期は、早生温州7月下旬、普通温州は8月上旬を目安に開始し、収穫期まで行うが、土壌の乾きやすさや灌水設備の有無によって、被覆の開始時期や地表面に対する被覆割合を調節する。マルチの適地は、水はけや日当たりが良く、着果量が中程度以上の園地である。水はけが悪い平坦な園地では、まず溝を掘り高畝にして土壌の乾燥を促し、併せて間伐、防風垣の刈り込みにより日当たりを改善する。

## 病害虫の防除

**温州ミカン** 黒点病は幼果期から成熟期にかけて感染、発病する。薬剤の予防効果は降雨により低下する。8月中～下旬に薬剤散布を行う。

ミカンサビダニは7月から9月まで加害するので、被害果を1～2個でも見かけたら直ちに防除を行う。

ミカンハモグリガは夏葉が展開し始める7月下旬～8月上旬に急増する。激発した場合や、幼木や若木、高接ぎした樹、刈り込みせん定で夏芽を出させた樹では防除が必要である。新葉展開初期から7～10日程度の間隔で2、3回薬剤散布を行う。3年生以下の幼木には粒剤も使用できる。春に続いて2回目の散布を行う。

ミカンハダニの重要な防除時期は梅雨明け期であるが、気象条件によって早晚があるので注意する。特に本年6月の寄生葉率は前年より高く、梅雨明けが早いので発生に注意し、寄生葉率が30%以上になった時点で速やかに防除を行う。

**中晩生カンキツ類** 8月中～下旬は黒点病やかいよう病の防除時期である。かいよう病は病原細菌が雨水によって伝播され、気孔や風ずれなどの傷口から侵入して発病するため、傷口を作らせないための防風対策やミカンハモグリガの防除を行う。台風前の薬剤散布が重要となる。

防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

### 《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 電話 0470-22-2961  
果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>